



R&D Center
for Smart Wellness City Policies
University of Tsukuba

スマートウェルネスシティ政策開発研究センター



筑波大学

日本スポーツ振興センター連携大学院協定、
筑波大学スマートウェルネスシティ政策開発研究センター発足

開所式 レポート



筑波大学
University of Tsukuba

日時：2021年5月17日 17時35分～18時20分 <https://youtu.be/Fdkygj2-Oc8>

概要

筑波大学国際産学連携本部は、2020年11月にスマートウエルネスシティ(SWC)政策開発研究センターを設立しました。そして、2021年5月17日に当研究センターの開所式が筑波大学東京キャンパスにてオンサイトとオンラインのハイブリッド環境で実施しました。開所式には政界、省庁、企業、及び関連団体から多くの来賓が参加され、ご挨拶をいただきました。

挨拶 永田 恭介



筑波大学学長

本日はSWC政策開発研究センターの開所式にオンサイト、オンラインで多数の方々にご参加いただき誠にありがとうございます。本センターは、幸せで生き活きた社会、健康長寿な都市づくりするための研究/政策集団の役割を担っていかうと企図している研究所であります。久野センター長と共に私も学長として、このセンターを盛り上げ、センターの目的に邁進していくことを約束させていただき、今日の挨拶とさせていただきます。本日はお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

概要説明



久野 譜也

筑波大学SWC政策開発研究センター長

この度は多くの関係の皆様にご参加いただきましたこと改めて感謝申し上げます。SWC政策開発研究センターは社会実験を基に政策提言し、提言したことが地域で活かされるよう尽力していきます。また、自治体、ビジネス界、スポーツ界などあらゆる現場の人材を高度化できるように活動を続けていきます。昨年センター設立以降に3名の客員教授、2名の医学医療系・人文社会系の先生方そして3名の専任教員が加わり、当センターを強化する面々が揃いました。このことも手伝って設立から約半年のうちに政府・自民党へ複数の政策提言をすることができました。特に2回目の緊急事態宣言に伴う健康二次被害に関する提言は、菅総理へ直接説明する機会が得られ、その後厚労大臣から声明を出していただくなどの動きにつながりました。このことには客員教授に就任した荒井先生の人脈が深く関わっており、大学だけの力では伝えられなかったことを世の中へ伝えられるチームができたと思っています。今後も政府や自治体への積極的な政策提言を進めていきます。また、当センターでは共同研究企業を随時募集しています。本日もご参加いただいた企業の中で興味がある方々には是非お声がけいただきたいです。さらに、今後エクステンションプログラムを開講する予定です。これは社会人大学院とは別の高度職業人育成プログラムで、企業、団体、自治体及び省庁に所属する未来を担う次世代プロジェクトリーダー候補の方々を対象とした短期間のプログラムです。こちらも興味がある方々のご参加をお待ちしています。

来賓挨拶



遠藤 利明

自民党衆議院議員

SWC政策開発研究センターが設立されて大変嬉しく思いますし、改めてお祝い申し上げますと思います。久野先生が私の所にいらしたときに、スポーツの力を活かした地域づくり、ならびに健康ポイントの必要性のお話をされて何とか応援したいと思って、今に至っています。今後の日本のスポーツ社会を考えたときに、日本スポーツ振興センターとの連携大学院協定も含めて、横とのつながりを持ちながら、地域社会にスポーツの力を発信していくことが求められると思います。その中で、SWC政策開発研究センターが設立されたことは本当に期待すべきことだし、元気な街づくり、健康づくりの取り組みを展開していくことを祈念しています。



鴨下 一郎

自民党衆議院議員、医師

久野先生とは登山口が違いますが、同じ山の頂上を目指す仲間として共に歩んで参りました。久野先生と歩調を合わせ、社会保障改革の「三党合意」後の法律に「自助努力が喚起される仕組み」と明記されるに至ってからは、公的保険は「給付するのみ」という考えからすこずつ変わってきました。SWC政策開発研究センターが様々なアイデアで日本の保険制度を持続可能に、そして個人をますます「健幸長寿」にしてくれるものと期待しております。



馳 浩

自民党衆議院議員

筑波大学が、政策のシンクタンクの役割を果たすと同時に、産官学の連携を行うプラットフォームとして、社会に発信をし、実践していくという役割が求められていると思います。SWC政策開発研究センターは、その役割を担う組織として認識しています。これは筑波大学ならではの発想と専門的な人材が揃っているからこそ、できるとだと思います。内閣府のまち、ひと、しごと創成事業においても、真っ先にこのSWCの論点が採用されるべきであり、何とか税制を含めてこの事業を横展開していきたいと思うので、引き続き、ご指導いただきたいと思います。この度はご挨拶の機会をありがとうございました。



上川 陽子

自民党衆議院議員、法務大臣

この度は研究センターの開所式誠にありがとうございます。私は2013年12月に鴨下一郎先生とともにヘルス&コミュニティ議連を立ち上げ、日本の超高齢社会の課題を克服し、よりよい地域コミュニティを中核に、多数の人が生きがいを持った人生を出来る限り最後まで過ごせるための政策化を進めています。この議連はSWC首長研究会

と連携しながら進めてきました。その取組の中でインセンティブ制度の制度化、健診や医療レセプトデータを活用しエビデンスベースで政策を推進するデータヘルスなど多くの事案の制度化に貢献してきました。比較的短期間で成果が得られたのは、熱心な首長さん達が揃ったことに加え、筑波大学がそれらの社会実験に企画段階からマネジメントし、各プロジェクトでエビデンスの集積に努めたからであると認識しています。この度、筑波大学が研究センターを発足させてこの分野の研究をより強化されたことは非常にありがたく、議連を代表して関係する皆様に強い感謝を申し上げます。また、研究成果を社会実装するためには、ビジネスの下支えが必要であり、センターの立ち上げに関わられた各企業の皆様にも感謝を申し上げますと同時に、この領域の産業強化にも貢献していただきたいです。最後に、コロナは大変ですが、我々は必ずこれに打ち勝ちます。自粛の行き過ぎによる健康二次被害の予防も大事で、Afterコロナも見据えて現在の日本の健康課題を克服するための研究成果がこのセンターから多く生まれることを期待し、ご挨拶とさせていただきます。



朝日 健太郎
自民党参議院議員、国土交通大臣政務官

本日のSWC政策開発研究センターの開所式、誠におめでとうございます。第3期のスポーツ基本計画審議会が始まっていることをはじめ、本当に大きなスポーツ政策の節目の年だと思えます。この度のシンポジウムのキーワードも「well-being」という言葉が浮かんできて、まさにオリンピック・パラリンピックのレガシーとして、このSWC政策開発研究センターが果たす役割というのも非常に大きなものだと思います。多くの方々がスポーツでどうやって社会課題を解決していくか試行錯誤しているところなので、是非先導して中心的な役割を担っていただければと思っています。これからの発展と大成功を期待してご挨拶とします。



山下 護
厚生労働省医療介護連携政策課長

この度は筑波大学SWC政策開発研究センター開所、誠におめでとうございます。現在、厚生労働省は、健康保険制度へのインセンティブ制度の導入を進めています。センターには、民間と行政、地方と国、アカデミアと行政を結束させる要として素晴らしい政策提言や新しい活動を提案していただくことを期待しています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。この度は誠におめでとうございます。



望月 一範
国土交通省大臣官房審議官

国土交通省では、コンパクトシティの評価に関するハンドブックや健康街づくりに関するガイドライン作成に関して、久野先生から多大なご指導を賜っています。今後もこのセンターを拠点として、SWCに関する

研究成果がますます蓄積をされていき、行政の施策との連携がますます深まっていくことを期待しています。本センターのご発展、本日ご参加の皆様のご健勝ご活躍を心よりご祈念申し上げます。私からのお祝いのご挨拶とさせていただきます。本日は、誠におめでとうございませう。



藤江 陽子
スポーツ庁次長

SWC政策開発研究センターの開所、誠におめでとうございませう。このセンターは、スポーツウェルネス領域における研究及び社会実装に加え、人材養成にもチャレンジする我が国では初めてのセンターであると聞いています。リカレント教育のノウハウを蓄積し、全国に展開されていくことを期待しています。スポーツ庁は、部活動においても望ましい環境を構築することや、教師の働き方改革の推進も重要な施策として位置づけているので、本センターの研究においても、部活動を地域のコンテンツとして捉えていることに大いに注目しております。是非この分野での共有も図っていきたく思います。



稲色 拓馬
経済産業省ヘルスケア産業課長

本日はおめでとうございませう。当研究センターの活動で、経産省として2つ期待している点があります。1点目はエビデンス作りです。健康経営の推進において企業が従業員の健康を高めるためにどうしていけば良いかというところはエビデンスが少なく、試行錯誤で行っています。当研究センターで企業の指針になるような研究成果を発信してもらえると政府の取組と強く連携できるのではないのでしょうか。2点目はネットワーク作りです。国と自治体の壁、企業の業種間の壁、霞ヶ関においては役所の壁などが存在します。こういった所をうまく横につないでいくネットワーク作りを期待しています。



芦立 訓
日本スポーツ振興センター理事長

SWC政策開発研究センターの開所、誠におめでとうございませう。我が国のスポーツ実施率の向上が長年の課題とされている中で、健康づくりやまちづくりといった活動を運動実施率の向上につなげていくという施策には大いに期待しています。私も日本スポーツ振興センターも、この度筑波大学スポーツウェルネス学学位プログラムと連携大学院協定を結んだので、今後より一層の連携を図って日本のスポーツ界を良くしていけることを祈念して、お祝いのご挨拶とします。



来賓の紹介(一言コメント)



今泉 柔剛

スポーツ庁政策課長(現東京大学理事)

このたびは、SWC政策開発研究センターの開所、おめでとうございます。また本日、筑波大学様とJSC様の連携大学院協定の締結こちらもおめでとうございます。今後とも御指導御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



小沼 宏治

スポーツ庁健康スポーツ課長

本日はセンターの開所式、おめでとうございます。高齢化や少子化といった喫緊の課題について、産学連携での研究・政策立案や、実施のための人材育成に取り組むとのことなので、私どもと連携をしてい

きながら、施策を進めていきたいと思っております。今後とも御協力をよろしくお願いいたします。

閉会の辞



山口 香

筑波大学SWC政策開発研究センター副センター長

SWC政策開発研究センター発足記念シンポジウムに続き、開所式も無事に終了することができました。皆様、大変ご多忙の中、ご出席賜り厚く御礼申し上げます。皆様から当研究センターへの期待、励まし、今後

取り組むべき課題をたくさんいただきました。これらのことに焦ることなく、真摯に向き合い、課題解決に向けて取り組んでいきたいと考えています。引き続きの皆様のご協力、ご指導、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

総括

コロナ禍での開催にも拘わらず、多くの皆様にご参加いただきました。お祝いの言葉をいただき、当研究センターへの各方面からの期待の高さを再確認する会となりました。皆様と共に人々の健康づくりに資する活動に邁進して参る所存です。関係する皆様に心から感謝申し上げます。

所属・役職は5月17日現在のものとなっています。



R&D Center
for Smart Wellness City Policies
University of Tsukuba

スマートウェルネスシティ政策開発研究センター

筑波大学

スマートウェルネスシティ政策開発研究センター

〒112-0012 文京区大塚3-29-1

筑波大学東京キャンパス(563室)

TEL 03-3942-5841 / FAX 03-3942-5841



筑波大学

University of Tsukuba